

中沢かつゆき 通信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自民党鎌倉市連合支部幹事長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

自民党、政権を取り戻す

12月16日に行われた衆議院選挙で、自民党は294議席と多くの支持をいただきました。3年3か月前に失った議席から大きく取り戻すことができたのも、多くの皆さんからの叱咤激励と思ひ、これからも精進してまいります。

3年半前、鎌倉市議選で20年ぶりに「自民党公認」候補として立候補させていただきましたとき、まさに自民党大逆風。だからこそ「自民党」として選挙戦を戦わせていただき、当選させていただきました。その後の衆議院選で大敗して下野。意気消沈している中、自民党神奈川県連では、「かながわ自民党」として、「外に出よう」と決めました。街頭活動で立ち止まってくださる方がほとんどいなくても、青年局が主体となった拉致問題、40代組織が主体となった組織拡大などを県

内各所で行ってきました。鎌倉支部と逗葉支部合同で、若手市議・町議で毎月街頭を行っております。11月16日の解散後は、街頭を行いますと、多くの方が立ち止って聞いてくださるようになり、多くの方が声をかけてくださるようになりました。自民党の政権公約はもちろん、鎌倉市が抱えている課題、特に防災と教育問題をお話させていただき、公示後は政党車で市内各所でお話をさせていただきました。

自民党地方支部幹事長として、今回の選挙では「選対副本部長」として選挙戦を戦わせていただきました。これからは、政権与党地方支部幹事長として、より市民の皆様のお役にたてる活動をしていきたいと思ひます。

鎌倉市議会初、教育委員長の答弁

9月定例会で取り上げ、新聞でも大きな記事となった鎌倉市のいじめ問題。鎌倉市議会では、「件数」報告がされるだけで、具体的な問題については質疑されることもなく、また教育委員会も積極的な関与を行ってきませんでした。しかし、9月定例会での質問後、多くの方からいじめに関してのご相談などのお話をいただき、改めて鎌倉市のいじめ問題の深刻さを感じました。子供たちが、安心して勉強ができ、安全な場所である学校でのいじめ。今まで放置してきた教育委員会や議会も、真剣に取り組むべきと、12月定例会で質問をしようと思ひましたが、10月から鎌倉市では教育長が欠員。しかも教育委員も教育長を含めて2名欠員。答弁をする責任者がいないという異常事態ですが、調べ

てみると「教育委員長」が議場番外席をもっているということがわかり、**鎌倉市議会初**、出席しての答弁をお願いしました。

山田教育委員長に、鎌倉市のいじめに実態についての質問と「いじめ問題対策プロジェクトチーム」など強いメッセージを教育委員会から発してほしいと質問をしました。いじめについては、教育委員会としても情報収集を積極的に行い、絶対許してはいけなないと、プロジェクトチームを含めて今後教育委員会定例会で諮っていきたいという積極的な答弁をいただきました。質問後、今後議会とも意見交換などを行っていききたい、というお話もいただきました。いじめは許さない、ということもこれからも発信していきたいと思ひます。

大川小学校を繰り返してはいけない

東日本大震災で、児童74名の死者・行方不明者と10名の教職員の死者・行方不明者を出した、石巻市立大川小学校。3.11で公共施設での死者・行方不明者最大という悲劇を出しました。今夏訪れた大川小学校には、献花台が設けられ、堤には向日葵が植えられ、鎮魂の場となりつつありますが、未だ行方不明の児童もいて、原因究明とともに捜索活動も続いています。当時、石巻市では教育長が病気のため欠員。助かった教員1名は、一度説明会に出席したのみで、その後は一切公の場に出ていません。教育委員会も、助かった児童や目撃住民からの聞き取りにおいて、報告書がずさんと指摘されたりと、教育委員会に対して不信感を増幅させています。やはり、教育委員会事務方の責任者である教育長の不在は、大川小学校の初期対応や原因究明において、大きな障害となっています。大川小学校の悲劇を繰り返さないために、鎌倉市の学校での防災について、質問をしました。教師が引率して避難できない災害が起きた時、

子どもたち一人一人が、自分の考えで避難しなくてはならない事態もあります。大川小学校では、児童が「山へ逃げよう」と進言しても、51分間校庭にとどまったという証言もあります。3.11から災害時の対応に対しての考え方が大きく変わった今、学校での防災教育を根本的に考え直す時に来ています。それぞれの立地状況に応じた災害訓練やハザードマップを使った訓練なども、積極的にやっていくという答弁。

明治学院大学政治学科のフレッシューズキャンプに、中村県議と評価員として出席しました。各ゼミごとに、神奈川に地震が起きたらということでの政策提言の発表でした。大学生も、デジタルコンテンツを駆使した災害初期情報発信や大学構内を災害時に開放することやその時の課題点などを若い世代からの視点でプレゼンしました。災害を、他人事ではなく児童、生徒、学生まで含めて教育の一環としていくことの重要性を改めて思います。

市長の政治姿勢

市長の発案で、職員が朝7時から各駅で「てのりかまくら」というA5チラシを11月26日から配布し始めました。配布した職員はスライド勤務で、早朝から勤務時間。夕方は「残業」扱いで仕事をしているという状態です。配布枚数は484枚。「市民の皆さんに直接手渡しで、タイムリーな情報提供」のためのチラシが、朝早くの通勤される市民の方に、484枚しかお渡ししていない。しかも、これ以上配布の予定はないとの答弁。市長も一緒に配布して、もっと広げていくことについては、今後取り組むとの答弁。教育長人事議案は、教育委員長も「早急に選任されることを願っている」と答弁していますが、市長からは積極的な答弁はありませんでした。市長の、教育問題に積極的でない姿勢がはっきりしました。

中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学理工学部情報科学科卒業
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所
客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ副会長
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
県議会議員中村省司秘書
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)
二階堂在住
事務局：Tel 0467-61-0305
Fax 0467-61-0315

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？



* 中沢かつゆきは温泉コンサルタントでもあります *

下田温泉：東京から「踊り子号」で2時間45分。伊豆半島南部に、下田温泉があります。江戸時代には、「風待ち港」として栄えましたが、江戸末期、ペリー提督率いる「黒船」が入港し、「開港」の地となったことで歴史の表舞台に記されます。ハリス総領事と唐人お吉、吉田松陰、ロシア使節プチャーチン提督、下岡蓮杖など、多くの名が刻まれた地でもあります。名所、旧跡も多く、また美術館が多いのも下田です。泉質は、単純泉やナトリウム-炭酸水素泉。市内には、4つの温泉がありそれぞれの総称として使われます。泉温は、約55～57℃。かけ流しにはちょうどいい泉温です。湯量は伊豆半島全体が豊富で、下田温泉もこんこんと湧き出しています。適応症は、皮膚病や神経痛、切り傷などです。「白浜」は、紀伊、房総にもある地名で、それぞれが温泉を持つというのも、不思議な縁です。幕末の、もう一つのロマンの地・下田で一日のんびり過ごすのも、旅の醍醐味です。

<http://www.shimoda-onsen.or.jp/>